

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	住吉区
学校名	苅田南小学校
学校長名	撫 俊男

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・苅田南小学校では、第6学年 40名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 平均正答率は、全国平均と比べ国語が10.8ポイント、算数が7.0ポイント、理科が11.1ポイント下回っている。
- 国語の標準偏差は3.1（全国3.0）、算数の標準偏差は4.3（全国4.0）、理科の標準偏差は4.3（全国3.8）であり、全国に比べて平均正答率のばらつきが大きくなっている。
- 平均無解答率は、全国平均と比べ国語が4.0ポイント、算数が4.2ポイント、理科が3.1ポイント上回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

- 〔国語〕
- 話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることに成果が見られた。ペアトークやグループトークを、自分の書いたことを発表し合う段階から、深め合う段階へと低学年時の時より発達段階に応じて継続的に行ってきた成果である。
 - 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られた。無解答率も全国に比べると高い。

〔算数〕

 - 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることに成果が見られた。知識・技能の習得に向けて、学びサポーターの活用や放課後学習など、習熟の遅い児童に対して丁寧に指導を行ってきた成果である。
 - 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られた。

〔理科〕

 - 氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解することに成果が見られた。
 - 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識を身に付けることに課題が見られた。

質問調査より

- 本校は、「一人ひとりの子どもを大切に考え、見捨てない」ことを学校経営の根底となる考え方としており、「あなたが大事」をキーワードにしている。また、子どもたちと教職員でスローガン「未来へつなごう！ 一人ひとりが生きる楽しい学校」作り上げた。
- これらを目標に、教職員も児童も教育活動に取り組んでいる結果として、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」「人が困っている時は、進んで助けていますか」という質問に対して、すべての児童が肯定的に回答している。
- また、「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」「国語授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれていますか」の質問に対して肯定的に回答した児童の割合は、それぞれ91.1%（全国8.2%）、94.1%（全国75.5%）で、全国を大きく上回っている。

今後の取組(アクションプラン)

- 本年度の研究テーマ「『主体的・対話的で深い学び』の実現」に向けて、教員一人一人がどのようにアプローチしたいのかを考え、類似したアプローチ方法の教員同士3～4名でグループを編成する。そして、グループごとに、研究テーマや視点、年間計画を決定し、実践を進める。
- 水曜日を「スイスイデー」として、漢字や計算等基礎的な学力の定着をめざした時間を10～15分程度設定する。
- 自分の考え方を持って学習活動に取組めるような学習計画を立て、考えた過程が分かるように表現する活動を通して、自分の考え方を適切に表現する指導を行う。
- 聞くことにおいては、話し手の考え方と自分の考え方とを比較して共通点や相違点を整理し、自分の考えをまとめようとする。また、ペアトークやグループトークでは、話し合いのゴールを示し、話し合いの質を高めるようにする。

【 全体の概要 】

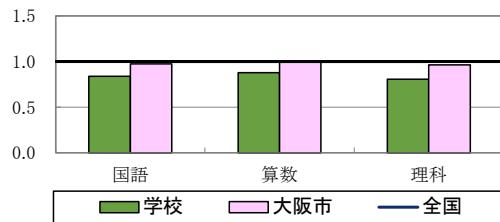
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	56	51	46
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

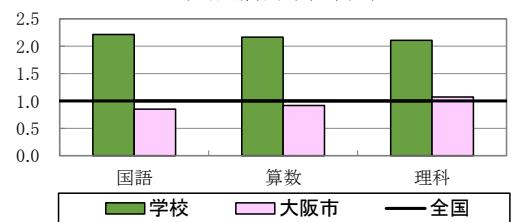
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	7.3	7.8	5.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



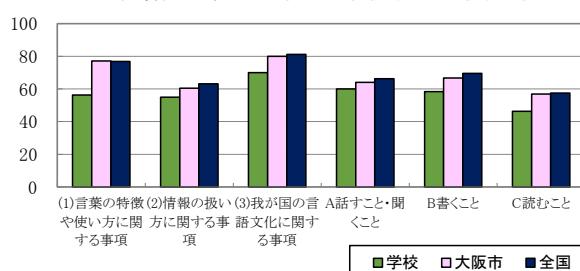
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	56.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	55.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	70.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	58.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	46.3	56.9	57.5

【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	54.7	62.7	62.3
B 図形	4	53.1	56.4	56.2
C 測定	2	41.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	49.2	58.2	57.5
D データの活用	5	51.5	61.9	62.6

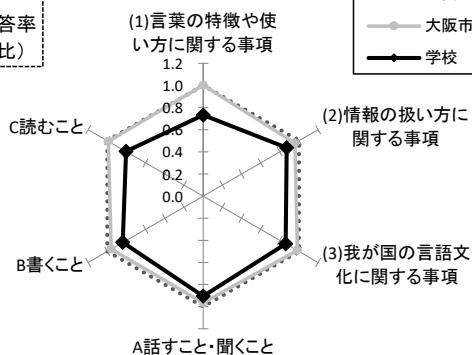
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



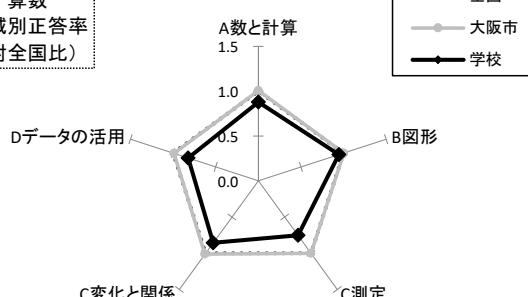
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

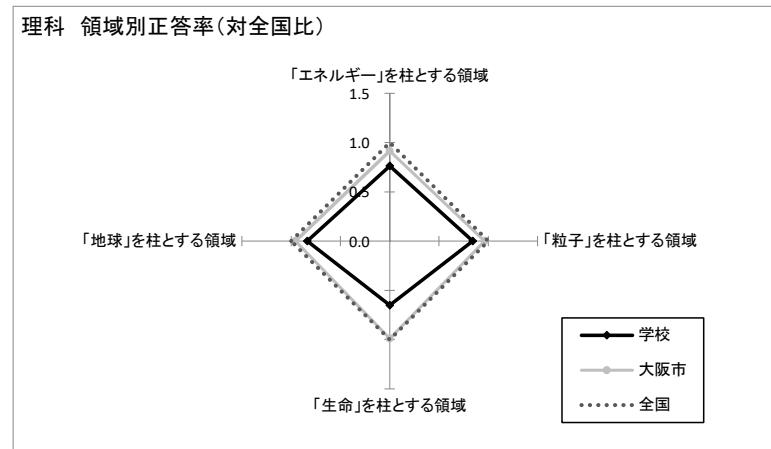
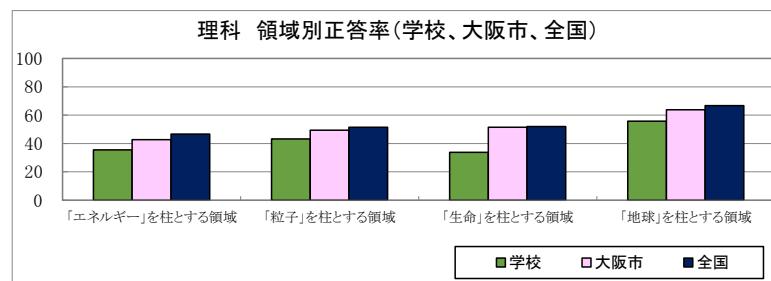


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	35.6	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	43.3	49.5
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	33.8	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	55.8	63.8



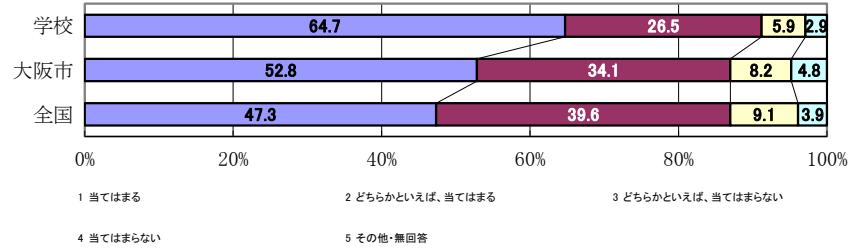
児童質問より

■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

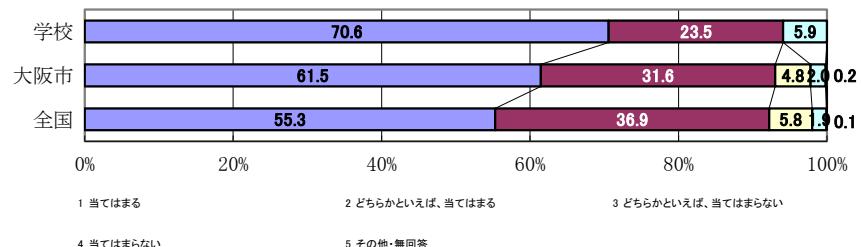
5

自分には、よいところがあると思いますか



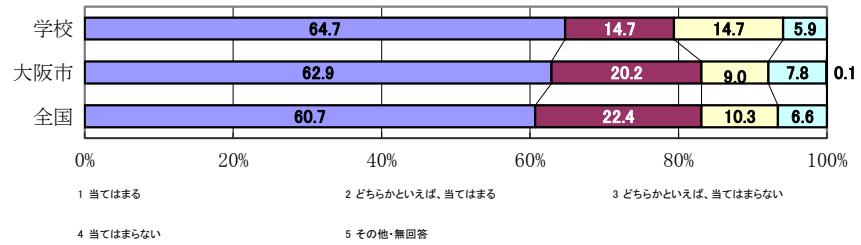
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



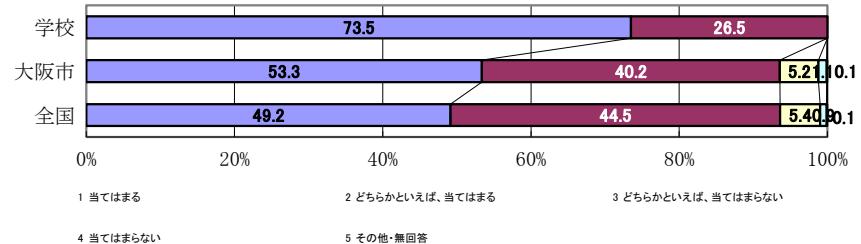
7

将来の夢や目標を持っていますか



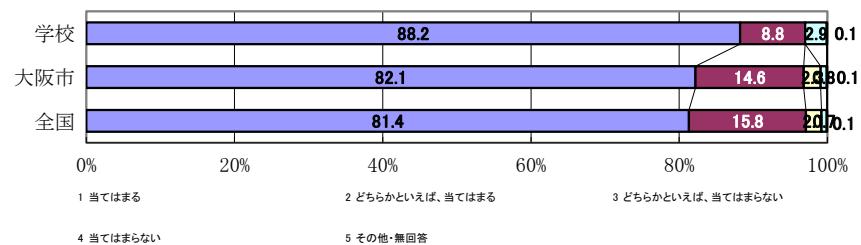
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



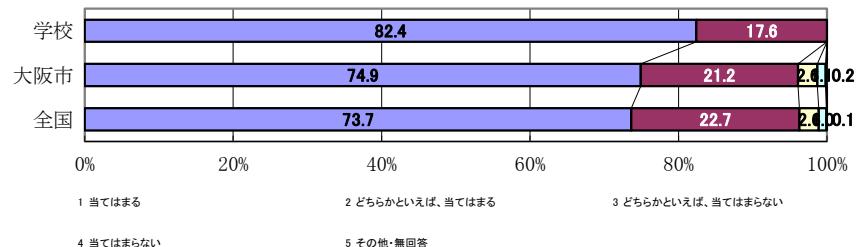
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

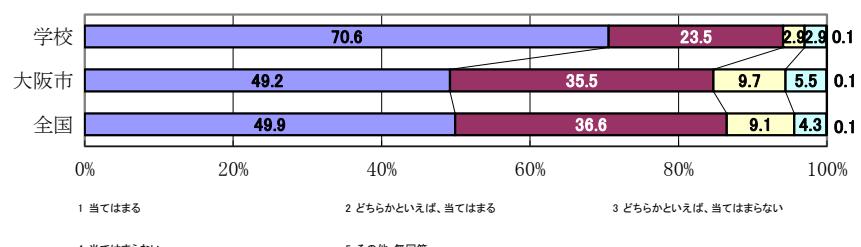
11

人の役に立つ人間になりたい
と思いますか



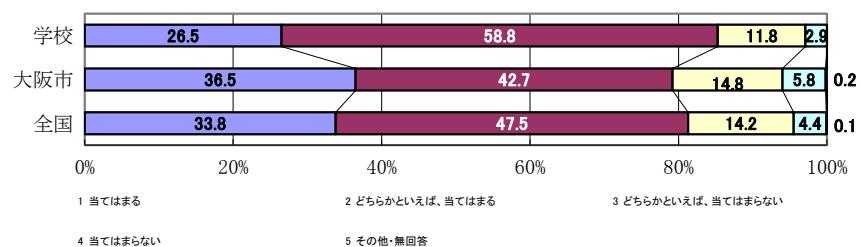
12

学校に行くのは楽しいと思
いますか



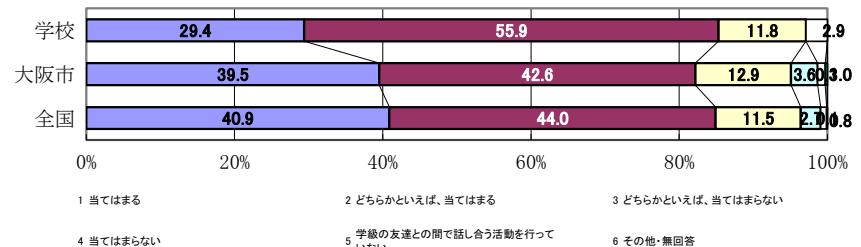
27

地域や社会をよくするために
何かしてみたいと思いますか



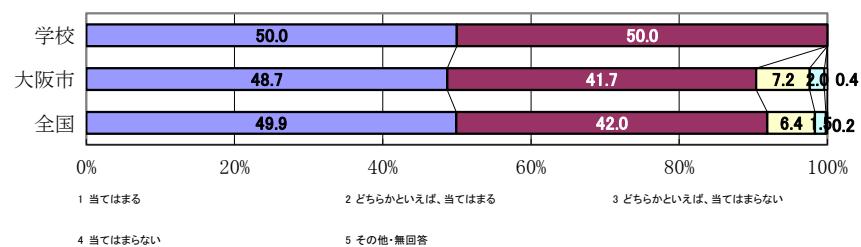
35

学級の友達との間で話し合う
活動を通じて、自分の考えを
深めたり、新たな考え方方に気
付いたりすることができますか



39

授業や学校生活では、友達や
周りの人の考え方を大切にして、
お互いに協力しながら課題の
解決に取り組んでいますか



学校質問より

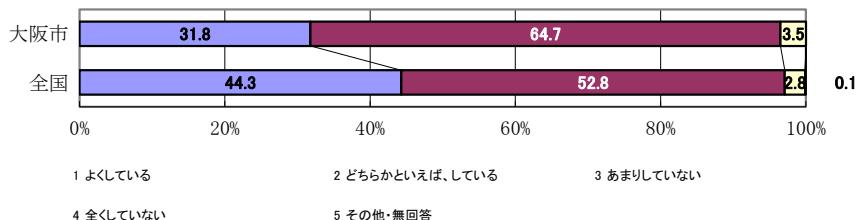
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

15

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

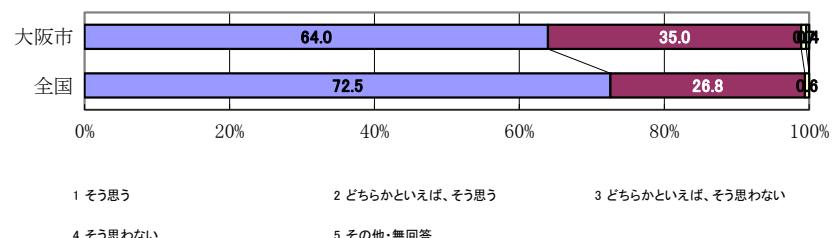
学校 「よくしている」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築しているだと思いますか

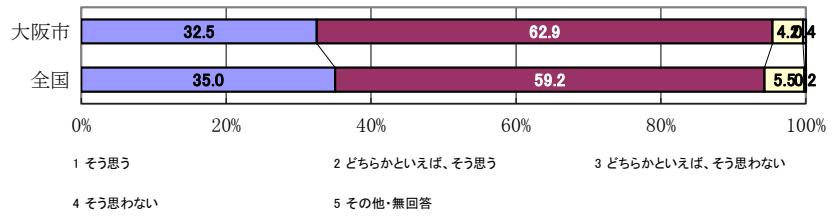
学校 「そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めているだと思いますか

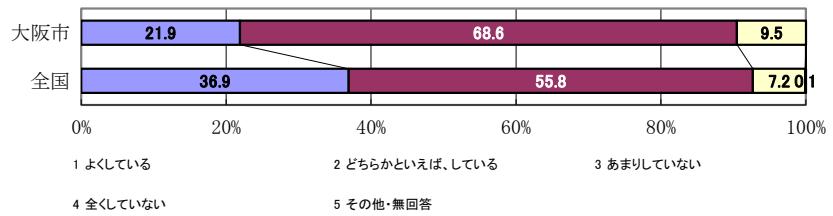
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



36

調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ、表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか

学校 「よくしている」を選択



48

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまずいた児童に対する対応を行えていましたか

学校 「よく行えた」を選択

